

学校目標・経営方針	知・徳・体の調和のとれた人間力を育み、次代の地域や日本を担うグローバル人材(グローバルな視点とローカルな行動力を有する人材)を育成する。 長所を伸ばし自己有用感を育むなかで、各自が納得できる進路の実現を図る。
-----------	---

山梨県立都留高等学校校長 三枝 正人

本年度の重点目標	質の高い文武両道を求め、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	自他への思いやりや優しさ、困難を乗り越える勇気と粘り強さを併せ持つ生徒を育成する。		B	概ね達成できた。(6割以上)
	自ら学び、判断し、行動する姿勢を求め、次代の社会を担い、自立して生きていく力を培う。		C	不十分である。(4割以上)
			D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価				年度末評価(2月5日現在)		
本年度の重点目標				年度末評価(2月5日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	質の高い文武両道を求め、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。	ICTも活用しながら「対話的」な活動を促すなかで、生徒が「主体的」に参加する授業を模索し、生徒一人ひとりが自ら問いを見だしその解決に向かう「深い学び」の実現を目指す。	授業アンケートの実施	○「学校PCやBYOD等が有効に活用されている」という問いに対しては、生徒も教員も9割前後で高評価を得ている。しかしながら、「授業の予習復習をきちんとするよう心がけている」生徒の割合が低い。	B	○BYOD端末の導入を機に、教員が工夫した授業を展開しているものの、深い学びにつながっていない可能性がある。ICTの活用と深い学びがつながる授業展開を目指す。
		部活動や学校行事において具体的な目標を設定して主体的に取り組ませることで、育成を目指す、自己と向き合う力・他人と向き合う力・課題に向き合う力の伸長を図る。	学校評価アンケートの分析と検証	○「部活動に主体的に取り組んでいる」割合は、教員も生徒も8割を超えている。また「学園祭が自主性を顕現する」と評価している問いに対しては、教員も生徒も9割近くが肯定的にとらえている。しかし、「質の高い文武両道を目指している」とする教員の割合が7割と低い。	B	○部活動や生徒会活動が活発に実施されており、今後もより質の高い文武両道を実現するために主体的な活動を後押ししていく。特に学園祭では、生徒の主体性を重視した活動を促す。
		単位制の特色を生かした幅広い選択科目の設定と少人数授業により、生徒一人ひとりの長所を伸ばし可能性を引き出すための教育課程を編成する。	学校評価アンケートの分析と検証	○「少人数授業は進路実現の目標達成に効果的である」と回答している生徒の割合が8割であるのに対し、教員の割合が7割とやや低い。各自が納得できる進路実現のために、継続的な検証が必要である。	B	○単位制の特徴である少人数教育と多種多様な選択科目の設定については、より効果的で柔軟な運用を目指し、教育課程委員会を通じて今後も継続して検討していく。
2	自他への思いやりや優しさ、困難を乗り越える勇気と粘り強さを併せ持つ生徒を育成する。	校外の教育資源を取り込んだ多様な教育活動を通して自己有用感を育みつつ、社会性や協調性、国際的な感覚を身に付けさせる。	学校評価アンケートの分析と検証	○9割近い生徒が「出前講座・大学訪問等の行事が進路を考えるのに役立っている」と答えた。特に、「よのなか科」では、外部からの成人や大学生を招き入れるなど、外部からの教育資源を取り組むことがスムーズにできた。	B	○今年度から開始された学校運営協議会の同意を得て、次年度より地域とも協働した体験的な学習を積極的に取り入れていく。「地域に開かれた学校」として、多様な社会に触れる機会を今後も創出していく。
		校内の教育相談体制を充実させるなかで生徒理解と情報共有に努め、家庭や外部機関とも連携しながら生徒指導に当たる。	学校評価アンケートの分析と検証	○「悩み等を相談できる体制が整っている」と9割の教員が答えているのに対し、「相談できる」と回答した生徒の割合は6割台と低い。学力・家庭環境等多様な生徒が在籍し、生徒の質的変容が認められる中、外部機関とも連携しながら、相談体制の充実を図っていかねばならない。	B	○カウンセリングマインドの醸成を図りつつ、専門家などの外部機関との連携を強化する。生徒からの相談を待つのではなく、生徒を丁寧に観察し、教員から積極的に声を掛け、生徒に寄り添った対応をしていく。
3	自ら学び、判断し、行動する姿勢を求め、次代の社会を担い、自立して生きていく力を培う。	学校生活全体を通して挨拶の励行、時間・規則の遵守、環境美化の推進を行うことで、社会人としての基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	学校評価アンケートの分析と検証	○「生徒の服装やマナーの遵守」「環境美化の推進」について、8割を超えた生徒から高評価を得た。学校生活の様々な場面で基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上が見られている。	B	○令和7年度より夏の制服としてハーフパンツ等を、また令和8年度より冬の制服を新たに導入することが決まった。
		「都留高探究プロジェクト」や「SAプロジェクト」、「よのなか科」など特色ある教育活動を展開し、自分と社会の関わりに気づかせることで将来への展望を開くキャリア教育を推進する。	学校評価アンケートの分析と「都留高探究プロジェクト」の成果の検証	○総合的な探究の時間を活用した「都留高探究プロジェクト(つる探)」の取組により、「主体的で深い学び」に役立っていると8割の生徒が回答し、「キャリア教育に係る講演会等は、進路について考える上で有意義だ」と8割以上の生徒が回答した。将来への展望を開くキャリア教育として十分機能しているといえる。	B	○多様な大学入試に対応できるよう視野を広げ、長所を伸ばし一人一人の可能性を引き出すことができるよう組織的なシステムの構築を目指す。
		高大連携事業の推進や年次に応じた適切な情報提供、懇談等を通じた家庭との連携強化により、生徒が自ら進路希望を定め、納得のいく進路実現に向けて努力できる環境を整える。	学校評価アンケートの分析、学力の推移および進路実績の検証	○「効果的な進路行事の実施、適切な進路情報の提供」、「三者懇談等の進路相談が適切に行われている」と回答した教員・生徒は、とも9割以上であるが、課外・土曜学習会が役立っていると回答した割合は生徒教員ともに低い。	B	○3年間を見通した一貫性のある進路指導の実現をめざすとともに、学年の壁を超え校内で共通理解が図れる土壌を整えていく。特に、卒業生の好事例を参考に、他学年の教員や進路指導の経験の少ない教員がそのノウハウを共有できる機会を増やしていく。

学校関係者評価	
実施日(令和7年2月13日)	
評価	意見・要望等
3	○アンケート結果より全体的に成果が表れているといえるが、キャリア教育に関しては、もう少し力を入れてほしい。社会課題や自身のキャリアの実現に向けて考えさせる学習の機会を。 ○質の高い文武両道を実践していると数字には表れているが、もう少し具体性があると良いのでは。また、今後は地域移行について触れていく必要があると思われる。 ○キャリア関係の方々との交流に加えて、海外の方との交流も深めていくと良いと思う。留学生等との企画など、協力できる分野は協力していく。 ○「教育課程については生徒の進路実現のために適切に編成されている」という項目の教員評価が低い。検討を。
3	○生徒へのケアについては、しっかりとなされていると言える。 ○生徒評価の公明性を確保するべきでは。アンケートの結果からは、相談体制の改善を図っていく必要があるかもしれない。 ○各種行事において、教員以外の外部コーディネーター人材を活用できるよう、改善策に明記してほしい。また、スクールカウンセラーを初めとした外部機関との連携を強化するため、周知の徹底をお願いしたい。
3	○よのなか科で実施しているビジネスキャンプやつる探は、将来の就業を考える上できっかけづくりになっているのだと思う。今後は何らかの形でキャリア教育につながるものにしてほしい。 ○探究活動については、素晴らしい活動を実践しているので、多くの中学生にその様子を発信してほしい。全体発表会も土曜日に実施したらどうか。 ○クリエイティブな活動が行われているようである。中学校にも大変参考になる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。